

名寄新聞

発行所
社 名寄新聞社
本 社 千096-0010
名寄市大通南2丁目
電話(01654)代表①1717
ホームページ FAX③2181
www.nayoro-np.com

下川支局
千098-1205
下川町西町58番地
電話(01655)④3545
FAX④3545

ケアーサロン
サクラダ
千ヨ口西4北2番⑤1-84

プリズム

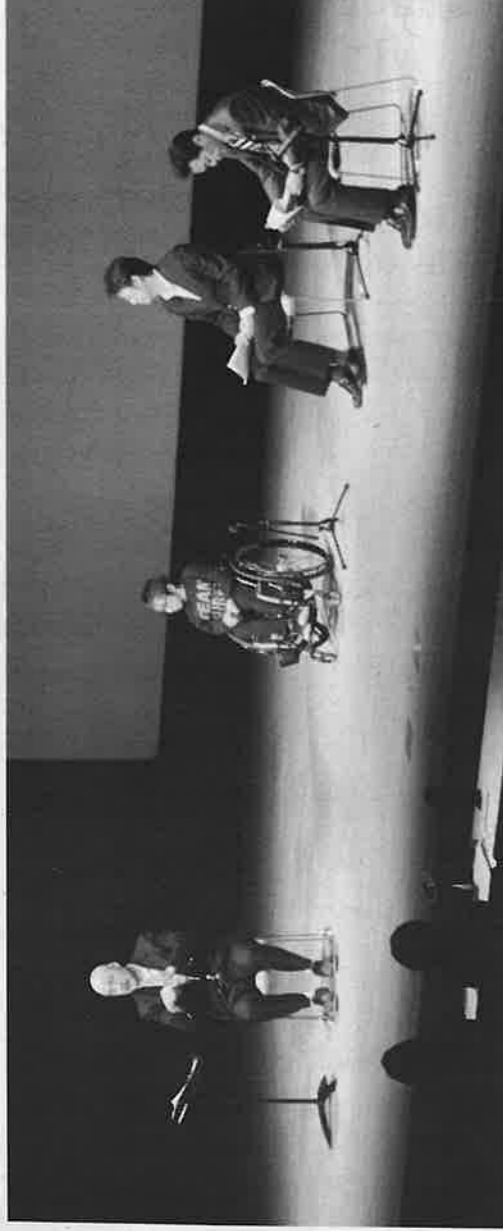

池野 好誠さん(名寄東小
学校6年生)
理学療法士
僕の将来の夢は、理学療法
士です。理由は、苦しんでい
る人たちに、少しでも健康な
生活を送ってほしいからで
す。松葉杖の使い方を教わっ
たことがあって憧れました。
これからは、理学療法士に
なるために詳しく調べ、夢に
向かっていきます。

18日
晴れ時々曇り
情報提供：気象庁(個川地方)

ながらスマートフォン
などを操作しない
と、明るく道や人
の多い道の通行、
中でも施設やドラ
ンをかけることを
ないことなども、
呼び掛けた。
街頭啓発と並
て、自転車の防犯
を実施した。
盗難防止のため
自転車の防犯登録、
や二重ロックなど
況を確認した後、
のチェック結果が
る「自転車防犯診
ード」をくくり
て、不備があった
は改善するように
た。

名寄市社会福祉協議会 共生社会を目指して

市民ボランティア講座 映画「咲む」、ろう者に理解



【名寄】名寄市社会福祉協議会(中島道昭会長)の第1回市民ボランティア講座が、15日午後1時半から市民文化センターエッセイホールで開かれ、共生社会を目指したシンポジウムに耳を傾けるとともに、聴覚障がい者たちの交流を描いた映画「咲む」を鑑賞した。

名寄市社協、名寄市ボランティアセンター、上川北部聴覚障害者協会、名寄手話の会が主催、名寄市との共催で開催。

前半はシンポジウムで「咲む(えむ)あふれる社会を目指して」をテーマに、カムシヨジウムに登壇した岡崎さん、五十嵐さん、加藤市長、矢口准教授(左から)

「大雲ハリアリ」研究所の五十嵐真幸さん、上川北部聴覚障害者協会の岡崎尚則さん、名寄市の加藤市長がシンゴジウムで登壇。名寄市立大学社会福祉学科の矢口准教授がコーディネーターを務めた。

岡崎さんは、下川町生まれで在住。2歳の時に病気で耳が聞こえなくなり、6歳から旭川ろう学校に通ったが「ろう学校では手話が禁止されていた。発声や口の形の練習が厳しかった。友達と手話で話していたら周りからシロシロ見られた。ろうあ者の運動で手話通訳制度など、いろいろな面で良くなるよう運動しているが、まだまださまざまなところで壁が残っている。」

五十嵐さんは、生まれつき骨形成不全症の障がいを持ち、車椅子で生活。同研究所では当事者目線からまちづくりの活動を展開「タクシー」に乗車拒否されたことがある。車椅子2台の場合はタクシー2台が必要なことも。タクシーやバスなどのようにして乗るか工夫を考え、自分から運転手に伝えることができれば配慮してもらえるようになる。

加藤市長は、2015年3月に「名寄市みんなを結ぶ手話条例」が施行されたことに触れ、「条例はできたが、生活や身近で困っていることや不安を聞いており、足りない部分があると感している。」

また「当事者の方から発信することで見えない壁が取り払われ、皆さんと協力することだと思っ。大切なこと

は一人一人が工夫、思いやりを持つこと。多様な共生社会へ、さまざまな考えを出さず課題を解決、施策に反映したい。たくさん

人の声を聞いて、住みやすいまちづくりを進めたい」と語った。

後半は映画「咲む」の女性が喜びや葛藤の中で生き、さまざまな障壁を乗り越える姿から、ろう者や聞こえないことは何か、手話言語は素晴らしい言葉であること、ろう者独自の文化に理解を深めていた。(中村)

名寄 日頃からの防犯を！

春の地域安全運動で街頭啓発

【名寄】「春の地域安全運動」(11日～20日)の街頭啓発活動が、16日午前10時半から西條名寄店前で行われ、買い物客らに日頃からの防犯を呼び掛けた。

同運動は①子どもの犯罪被害防止②女性の犯罪被害防止③特殊詐欺の被害防止の重点3本を柱に掲げ、展開している。

街頭啓発には名寄警察署、名寄市防犯協会、名寄地域安全活動推進委員協議会などが参加した。

買い物客に対し、同運動を周知するチラシをはじめ、ポケットティッシュ、除菌ウェットティッシュ、夜光反射材のセットを手渡した。

特にオレオレ詐欺、架空請求詐欺、還付金詐欺、キャッシュカード詐欺などの特殊詐欺被害防止などと呼び掛けた街頭啓発



欺被害が全県で相次いでいることから、少しでも不安を感じたら警察相談電話「ゼロ110」や警察署まで相談することを呼び掛けた。

また、子どもと女性の犯罪被害防止、防犯サートの携行、歩き



自転車の防犯診断も行い、施設などの状況を確認した

安全運転呼び掛ける

名寄市内で「旗の波運動」



【名寄】交通安全「旗の波運動」が、16日午後3時から交通監視所前(西4南10)の国道4号線沿いで行われ、安全運転を呼び掛けた。

毎年5月から10月の15日を「市民交通安全の日」として実施しているもの。

今年は名寄交通安全協会、交通安全モデル町内会、熟年女性安全運転同好会、名寄地域交通安全活動推進協議会、緑十字会、名寄自動車学校、名寄警察署から41人が参加。15日が日曜日だったため、翌16日の実施となった。

高齢者がはねられ、亡くなる事故が発生しており、名寄でもいがか加害者、被害者についてもおかしなと警鐘を鳴らした。

また、名寄警署死に交通事故70名、日数が16日現在で110日となっている。とも触れ、「これからも継続できるように力を願いたい」と交通安全協会の建設「理事長が「小積み重ねが交通事故防止に結び付く」と意識で活動してほしい」と挨拶した。

参加者たちは、交通安全などと書かれた黄色い旗を手を合わせて道に立ち、車が行するドライバーに全運転を呼び掛けた。

また、例年通り

名寄川火災を注意

一般家庭などの配管状況にあったし、本年度も注視していく考え